



ごあいさつ

自由大学運動は 100 周年目の節目の年輪を刻むことになりました。自由大学は 1921 年 7 月に「信濃自由大学趣意書」を宣言し、同年 11 月に信濃自由大学（のち上田自由大学）第 1 期第 1 回講座が開校されて産声をあげました。趣意書の冒頭は「学問の中央集権的傾向を打破し（後略）」と謳っています。

自由大学運動は、眼前にひろがる不自由、格差、係争、不平等に立ち向かい、世の中を、教育を、身のまわりを、自分たちを、少しでも良く変化させようとした民衆の自己教育運動でありました。

皮肉にも、人類が求めてきた文明は、いま逆に自然破壊、人間破壊の危機を迎えようとしています。こうしたなか、人間が人間らしく生きるため、労働と教育の結合を芯としながら、働きながら学ぶ民衆のための自由大学の心棒を支え合うときがきました。民衆の感じる痛みに応えようとして生まれた自由大学運動の歩みを確かめるために、100 周年を機に、いま学び合いましょう。いま語り合いましょう。（大槻宏樹）

プログラム

【午前司会】 飯塚哲子（東京都立大学准教授）／平川景子（明治大学教授）

10:00 開会
開会の挨拶 大槻宏樹（早稲田大学名誉教授）
10:15 「自由大学理解のために」 片岡了（明治大学講師）

I 基調報告

10:30 「自由大学 100 周年の意義」 長島伸一（長野大学名誉教授）

11:40 ～昼食休憩～

【午後司会】 片岡了（明治大学講師）／村田晶子（早稲田大学教授）

II 学問の自由と主体形成

12:30 「省察的民主主義（Reflective Democracy）への企図としての自由大学運動」 柳沢昌一（福井大学教授）
13:10 「伊那自由大学とはなにか」 清水迪夫（飯田市歴史研究所市民研究員）
13:40 「阿智自由大学の現状と課題」 林茂伸（阿智自由大学運営委員会代表）
14:10 「自由大学から現在の大学を問い直す」 古市将樹（常葉大学准教授）
14:40 ～休憩～
14:55 「学びの場のつくれかた 一大正期の上田自由大学を中心に」 渡辺典子（日本女子大学、武蔵野美術大学講師）
15:25 「自由大学の影響を考える ー林源と勤労青少年教育ー」 米山光儀（田園調布学園大学教授・慶應義塾大学名誉教授）
15:55 「自由大学研究への期待」 大槻宏樹（早稲田大学名誉教授）

III 質疑応答

16:25 質疑応答
17:00 閉会
閉会の挨拶 藤田秀雄（立正大学名誉教授）

自由大学へ

（一）

自由大学の會員諸君！悦べ、僕達の雑誌が出来た。恒藤君が自由大学という正體の知れないものの蓋を始め、上田で開けたのが大正十年の十一月、さうだ、自由大学の歴史にもそれからもう四週期が来た。そして此の四週期の歴史を記念するかのやうに、始めて僕達の雑誌が生れたのだ。日本で最初のプロレツトカルトの雑誌だ。成人教育の機關雑誌だ。此處は僕達の交誼場だ。利外研究室だ。そしてまた僕達と同じ様な爲事を此れから日本の何處かで始めようとする未知の友人達との交情俱樂部でもある。

此の雑誌の誕生と共に、僕は三番町役の論文が、其れこそ「床の間」論文といふ讀んでも讀まないでもよい飾りを書く事に、會から規定せられて居た。けれどももう其の三番町論文は大概でよいといふ氣がする。自由大学の趣旨を、僕は此れまで何度書いたか知れない。其れを知りたいものは何れかの自由大学から發行せられて居るパンフレットを見てくれ給へ。また本誌を此の創刊號だけ見る者もなからうから、僕達のやつて居る事の報告が誌上に現れる時、其れで自然に知つてくれ給へ。雑誌の「自由大学」には、また其れに特有の爲事がある。

タカラ・テル——ご承知の方もいるかも知れませんが、私は九〇歳をしております、今日、こられるかどうかということが大変な問題でして、主治医から医者がついていけば行ってもよいと許しができましたので、幸い娘が医者をしておりますのでそれ連れて、来たような次第でして、来るのがやうとこさでしたから、みなさんにお話ができるような準備を何もしておりません。ほんのわずかの感想だけを申し上げます。

およそ六〇年前になりますね。私この地方にまいりまして、偶然といふものでしょう、この地方で自由大学運動がおきておったのですから、その人たちと親しくなって自由大学と関係するようになりました。私は自由大学から頼まれて教える役割をしたんですが、実際は自由大学から教わったんです。特に自由大学の會員である農民・労働者、その人たちから非常に大きな影響を受けて、私のものの見方というのがだんだんですけれども根本的に変わりました。もしここで私の

ものの見方が変わらなかったなら、私は、ある学問をやる人間のひとりとしてか、または作家のひとりとして一生を送ったでありましょう。ところが、自由大学を通じて、この地方の労働者である労働者・農民その他の人々と直にふれあうことをつうじて、非常に影響を受けて、私のものの見方が根本的に変わってしまったんです。そして、あらためて社会運動の方へゆっくりと進むことになりました。社会運動の方向へ進むようになりました。からはいままで一貫してその道をたどってまいりました。だから私は、教える来たんですけれども、実は自由大学から教わったんです。私のすべての根本的なものの見方、考え方の発展は、自由大学のおかげでした。自由大学の會員である労働者・農民のみなさんから教育されて、自分の進む道を見だし、一生それを貫いたということになっております。